

国際交流つうしん



P.4 災害時外国人サポーター養成講座



P.4 国際理解セミナー

目次

- P.2 多文化共生社会理解促進講座
- P.3 イベント報告
白井市立南山中学校
ウクライナ避難民交流会「デイドゥフ」ワークショップ
- P.4～5 事業報告（令和5年11月～令和6年2月）
- P.6 団体活動紹介 ちば多文化共生地域円卓会議 / 令和6年度事業計画
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 世界からようこそ千葉県へ！ ～リトアニア共和国～

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**



一歩ずつ無理なく着実に学習できる一冊！

**日本語教師をめざす人のための
スモールステップで学ぶ 文法**

原沢伊都夫 著

2,200円（税込）B5判 225頁＋別冊34頁（資料）

日本語教師になるための試験で重要な文法を全10章で学習。各文法項目には丁寧な解説と問題があります。シリーズ「音声」「教授法」も発行予定。

立ち読み・目次はコチラ→



最新刊や教材の使い方動画の情報等は <https://www.3anet.co.jp/>

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は **出入国在留管理局への出頭が免除**されるので、**仕事や学業に専念**することが可能です。

お問い合わせは…



千葉県行政書士会

www.chiba-gyosei.or.jp/



〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL：043-227-8009 FAX：043-225-8634



【ENJOY TAG】英語でタグラグビーをしよう！12月11日@千葉市立有吉小学校

今年度の多文化共生社会理解促進講座では、体育の授業を活用し、英語のネイティブスピーカーによるコーチと一っしょに簡単な英語を使ってボール遊びをしながらタグラグビーを楽しむ訪問授業を取り入れています。12月11日に千葉市立有吉小学校の6年生3クラスを対象に実施しました。タグラグビー教室の前には、「世界中に友達をつくらう」をテーマに、ペアを組んで英語で自己紹介をしたり、好きな食べ物やスポーツをクラスメートに伝える活動などを行いました。

渋谷インターナショナルラグビークラブの代表で、2019年ラグビーワールドカップの日本招致に携わり、大会開催時には組織委員会の事務総長特別補佐として大会の準備、運営を担当された徳増浩司先生は、「この授業は45分間の授業中に、一切日本語を使用しません。最初は戸惑いますが、英語に触れ続けることでどんどん耳が慣れてきますので、授業の後半にはコーチの指示にもすぐに反応できるようになってきます。これを機会に子どもたちに英語を好きになってほしいです。」と話され、オーストラリア出身のコーチ2人も、「子どもたちを外に連れ出したい、部屋の中でゲームをするよりも新鮮な空気を吸って体を動かすことがとても大切です。」「英語を学ぶのは教室だけでなく、屋外でもいい。スポーツを通じて英語を学び、英語を通じてスポーツを楽しむ。どちらも学び方の方法であり、一体なのです。」と授業の意義を語りました。英語のリスニングやスピーキングのアウトプットに、パスやキャッチの動作が加わることで、より自然な形でコーチとのコミュニケーションを楽しむことができました。



絵本で学ぶ外国文化 12月15日@浦安市立明海南小学校

小学1年生を対象にパキスタンの昔話「おばあちゃんをすてちゃいやだ!!」の読み聞かせを行いました。年老いたおばあちゃんを砂漠に捨てに行こうと、ベッドを作り、「村の掟だから仕方がない」というお父さんに、心優しい主人公のターリクは、「どうしておばあちゃんをすてるの？お父さんが年をとったらどこにすてればいいの？」と問いかけます。パキスタン出身のバルニーさんをゲストティーチャーにお迎えし、子どもたちはお年よりや障がい者の方を隔離することの問題について考え、授業後はバルニーさんにウルドゥ語で名前を書いてもらうなどして交流しました。



多文化共生社会理解促進講座の様子が、NHKワールドで放送されました！



NHK国際放送の番組「BENTO EXPO」では、NHK WORLDで毎週金曜日に放送中の番組で、世界各国の弁当愛好家のお弁当や、日本のお弁当の作り方などを紹介しています。

2月2日の放送回で、パキスタンのバルニーさんがご家族で出演されました。12月15日のバルニーさんのパキスタンについての講演や、子どもたちとの交流の様子が収録されました。右記QRコードよりVOD視聴が可能ですので、ぜひご覧ください。

クリップ名「Season 8-18 Peanut Fried Rice Bento & Peanut Tsukune Chicken Bento」



BENTO EXPO 千葉特集

柏市の日本語学校で学ぶベトナム人や小学校で交流授業を行う松戸市のパキスタン人など、千葉県在住外国人のBENTOライフをご紹介します！



NHK 千葉 @nhk_chiba
X (旧 Twitter) 発信中！
ぜひ、フォローをお願いします

千葉県内のニュース、放送番組の情報など、暮らしに役立つ情報を投稿します



HPIは
こちらから

当センターの文化ボランティアとして活動されている赤木静香さんは、当財団が支援する国際会議や大使館関連のチャリティーイベントに精力的に参加されるなど、箏の演奏や指導を通じた国際交流の第一人者です。

赤木さんは白井市立南山中学校で箏の指導をされる中で、校長先生から「将来は国際的な仕事に就きたい」と熱望する生徒達がいると聞き、その一助となればとかねてより親交を築いていたガーナ大使に同校での講演を依頼、アパルゥ大使はその思いを斟酌され、講演をお引き受けくださったそうです。

当日は、在校生徒がガーナの国歌を箏で演奏し、大使と参事官を歓迎しました。講演では、大使館の業務全般について、また経済協議、ビザ・パスポート等の領事事務のほか、ガーナを代表する駐日大使として、日本との友好関係を深めることがとても重要な役割だとお話になりました。



講演するアパルゥ駐日ガーナ大使



箏の演奏で大使を歓迎する生徒たち

ガーナはチョコレートで有名で、カカオの生産量は世界2位として知られています。織物工業も盛んで、色鮮やかな布織物が会場で披露されました。教育に関しては、経済的に不利な子どもが多く、必要な食事・栄養が摂れるよう、国が無料で学校給食を提供しているなど、貧困の課題についての言及もありました。

講演後、生徒からは次々と英語で質問が挙がり、大使は一人一人の質問に丁寧に回答。日本とガーナとの共通点を問われると、「ガーナは世界で一番フレンドリーな国で経済的課題に直面していても、心は豊かで満たされている。日本人も外国人が困っていると手を差し伸べるところがガーナと共通している」と強調されました。外交官として世界各国で仕事をする上で、積極的に外国語の勉強をすることがキャリアにつな

がると実感しており、将来を見据え、「外国語を学び続けよう」と、全校生徒に力強くエールを送られました。

ウクライナ避難民交流会「ディドゥフ」ワークショップ開催 12月9日 @幕張テクノガーデン2Fアトリウム

ウクライナの伝統的なクリスマスの飾り「ディドゥフ」を作るワークショップを通じてウクライナ避難民と交流するイベントが、日本財団の後援で日本ウクライナ友好協会KRAIANYが主催、当財団が入居する、幕張テクノガーデン（MTG）の2Fアトリウムにて開催されました。

「ディドゥフ」は、小麦の穂とカラフルなドライフラワーで作る、とてもかわいらしい飾り物で、収穫の感謝を神様に伝えるために、昔はクリスマスツリーの代わりに飾っていたそうです。

当日は、ウクライナから避難をしてきたご家族や、支援者、関係者約18名が集いました。ライ麦、小麦、オート麦とドライフラワーを9本の

束に組み合わせ、美しく段状に束ねる作業は慣れるまでが大変でしたが、ドネツィク州でウクライナの伝統芸術を専攻していたという講師のオリガさんや、通訳のナタリアさんのサポートで、参加者全員が自作の「ディドゥフ」を完成させることができました。

ワークショップの間は終始ウクライナのクリスマスキャロルのBGMが流れ、参加者同士で交流をしながら楽しく作業ができました。

ウクライナではクリスマスに伝統衣装や動物の格好をした子どもたちが近所の家を訪ね、キャロルを歌ってお祝いをするのだとか。クリスマスはウクライナの人々にとって、みんなで祝い、家族や友人と絆を深める大切な行事となっているのだそうです。



◆日本語基礎講座（2期）（11／2，10，15，22，29）

本講座では、日本語学習支援に関心がある方を対象に、「多文化共生とは何か」、「やさしい日本語を通じたコミュニケーション」等についてオンラインで学び、県内12市町村から26名の参加がありました。受講者からは、「社会的な課題について、自身も関わっていきたいと思った」、「グループワークで、すでに学習支援をされている受講者の方とお話できたのが興味深かった」、「学びが深まったので、ぜひ今後の活動に活かしたい」等の声が聞かれました。



◆災害時外国人サポーター養成講座（12／2@館山市，1／21@東金市）

災害時に外国人を言語の面からサポートするボランティアの方を養成する講座を、今年度は館山市と東金市で実施し、多言語支援センター設置訓練と避難所巡回訓練などを行いました。

館山市では、「災害時に外国人が直面する課題とボランティアの役割」「災害時に役立つやさしい日本語」の講義を当日リアルタイムで配信し、当センターの語学ボランティアの方々17名がオンラインで参加しました。災害時は遠隔での通訳や翻訳の需要が見込まれることから、オンラインツールを活用し、翻訳シートの共有や入力作業を実際に行いました。



◆オンライン日本語クラス（1／11，18，25，2／1，8）

県内在住外国人の方を対象に、「オンライン日本語クラス」を開催しました。講師は地域日本語教育コーディネーターの油川氏に加えて、日本語教師有資格者の2名が担当し、9名の外国人の方々に参加いただきました。また、クラスには令和4年度と令和5年度の基礎講座の修了者にも日本語学習支援者として参加いただきました。初回クラスの開催前には、講師と支援者を対象に事前研修を行い、クラスでの心構えや進行等について確認を行いました。このクラスは、講師・支援者と参加者が「教える」「教わる」という一方的な関係ではなく、両者が対等な関係でコミュニケーションを取りながら参加者の日本語能力向上を目指すことを目的としました。参加した外国人の方々は国籍も日本語のレベルも異なりましたが、自分の知っている日本語を使いながら、自分自身のこと、好きな食べ物、趣味のこと、週末にしたこと、日本でしたいことなどをお話しされました。クラス終了後には支援者から日本語学習支援に関する質問も多く聞かれ、講師・支援者・学習者が一体となってクラス活動を行うことができました。



◆国際理解セミナー（1／28@千葉県教育会館）

「グローバル・千葉の魅力を高めるために」～職場や地域での多文化共生を考える～というタイトルで、県と共催の国際理解セミナーを開催しました。グローバル人財サポート浜松代表理事の堀永乃さんの進行で、県内在住の外国にルーツを持つ5名の方をパネリストに迎え、①日本での仕事のやりがい②ここが不思議（変）③千葉の魅力って？④なぜ千葉県に？⑤外国人がいることにどんなメリットがあると思う？をテーマに、日本に来たきっかけや、経験談を交えて意見交換しました。



◆関東地域国際化協会連絡協議会（1／30）

関東地域国際化協会の連絡協議会「情報交換会」に参加しました。13の参加団体から事前に議題が提案され、とりわけ外国人相談と地域日本語教育にテーマが集中しました。外国人相談では専門機関との連携や専門の相談員以外の相談対応、コロナウイルスの相談状況などについて、また地域日本語教育では初期日本語教育の実施状況や、児童生徒の母語支援、民間企業との連携などが取り上げられました。各団体の具体的な取組事例や工夫が伺え、今後のより良い事業推進の参考となりました。

◆地域日本語教育推進事業調整会議（第2回）（2／2）

県の地域日本語教育推進事業について、有識者を交えて検討する会議が開催され、令和6年度の事業計画や企業、日本語教育機関との連携を議題に話し合いました。今回は外国人職員が多く活躍している法人が新たに委員に加わり、職員の日本語能力向上の工夫や、地域日本語教育への要望など、法人目線での意見を聞くことができました。

◆地域日本語教育関係者ミーティング（2／9）

県内の地域日本語教育関係者と市町村職員を対象に、セミナーと意見交換を行いました。セミナー講師にはNPO多文化共生プロジェクト代表の深江新太郎氏を迎え、「初期日本語学習者の伝えたいことに寄り添っていく聞く力とは」と題し講演いただきました。講演後には深江氏と参加者の間で意見交換や質疑応答が行われ、学習者の支援方法や教室の運営方法について知識を深めることができました。

◆外国人相談担当者意見交換会（2／15（オンライン開催））

県内で外国人相談業務や生活支援に従事する担当者を対象に、講演及び意見交換会を開催しました。講演では2名の講師をお招きし、東京出入国在留管理局在留支援部門の北村晃彦氏からは「出入国在留管理行政を巡る最近の動向」について説明いただき、また、社会福祉法人日本国際社会事業団（ISSJ）の石川美絵子氏には「相談者に寄り添う支援—ソーシャルワークの取組と連携について」と題し、相談における大切な視点や実践的な支援方法等をご紹介いただきました。今回の参加者は市町村、国際交流協会の外国人相談窓口に加え、弁護士会、行政書士会、自立相談支援機関、母子生活支援施設等の担当者にもおよび、外国人支援の注意点等について共に学び、今後の協力や連携について幅広く話し合う機会となりました。

◆国際理解セミナー（2／23@千葉市文化センター）

JICAと共催で4年ぶりに対面で国際理解セミナーを開催しました。第一部はパプアニューギニア出身で城西国際大学の特命教授バハウ サイモン ピーター氏を講師に迎え、800以上の言語が話され、その部族によって文化も異なるというパプアニューギニアならではの多文化共生社会や、違いを楽しむことの大切さなど、日本の多文化共生について考えさせられるお話をいただきました。第二部はJICAの教師海外研修でザンビアに訪れた教員3名が帰国後の授業でどう生徒たちに伝えたかを報告し、多角的な視点から捉えることの大切さや、今後どう生きるか、そのためにどんな力をつけていくかまで言及し大変興味深い内容でした。



◆令和5年度 多文化共生社会理解促進出前講座

在住外国人講師から出身国の文化や習慣についてのお話を聞き、多様なバックグラウンドを持つ人々と交流する出前講座を実施しています。今年度は小・中学校に加え、医療機関や特別支援学級などにも対象を広げて実施しました。

日程	学校名	対象	テーマ
5/25, 6/8	船橋市立葛飾中学校	3年生 370名	グローバルキャリア宣言をしよう
6/5	千葉大附属小学校	帰国学級 19名	LGBTQと先進国の教育について
6/19	市川市立大和田小学校	4年生 105名	多様性について
6/27	市川市立宮田小学校	5～6年生 129名	異文化交流
7/10	千葉大附属小学校	2年生 32名	イギリスの衣食住やむかし話、学校生活について
7/12	千葉市立花見川小学校	たんぼぼ学級 4名	ペルーについて知りたいな
8/24	千葉大附属病院	小児病棟 10名	ペルー絶景マチュピチュVRツアー
9/15	船橋市立二宮中学校	3年生 249名	異文化コミュニケーション
9/20	市川市立大洲小学校	5年生 86名	世界の国と日本の暮らしの違い
11/9, 10, 12/15, 1/26	浦安市立明海南小学校	1～4年生 142名	世界の国々と日本の文化の違いを知ろう
12/11	千葉市立有吉小学校	6年生	英語でタグラグビーをしよう
12/19	市川市立百合台小学校	3年生 104名	国際理解と英語学習
1/26	船橋市立大穴北小学校	5年生 113名	外国の文化に興味をもとう
1/30	成田市立八生小学校	1～6年生 51名	外国と日本の似ているところ、違うところ

団体紹介

ちば多文化共生地域円卓会議

NPO法人多文化フリースクールちば 白谷秀一

コロナが落ち着き始めると各地でいろいろなネットワーク作りの会議が開かれるようになりました。私たち「NPO法人多文化フリースクールちば」が開催した会議もその一つです。

本スクールは学齢を超過しているにも関わらず日本語が十分でないため進学できなかった外国につながる子どもたちを高校へつなぐ活動を行っています。活動の中で、福祉や法律関係者の力は必要不可欠だということを痛感してきました。他分野以外の人たちとのネットワークを作りたいという思いから、円卓会議を計画しました。中学校から高校卒業までの生徒に係わっている行政・教育委員会や高校・ボランティア団体に参加を呼びかけ、有難いことに、実に多くの教育以外の分野からの参加者が集まりました。



第二回会議の様子 (R5.11.12)

一番反響があったのが、「グループディスカッション」です。やはり、皆、自分たちの活動を紹介し他組織・団体と手をつなぐことを期待していたのです。そこで、11月に計画した第2回目の会議ではグループディスカッションを中心に開催しました。名刺交換や、研修会への講師派遣の依頼等もなされ、とても有意義なものとなりました。

また、同時期に、教育や福祉分野で活躍する人たちが外国につながる子どもたちの問題についての勉強会も行っていました。勉強会と私たちのスクールとで大きなネットワーク「外国につながる子ども若者支援ネットワークちば」を設立し、「千葉大学移民難民スタディーズ」と「房総多文化ネットワーク」がオブザーバーとして協力してくれることになりました。

今後、このネットワークで1年に1回以上の円卓会議を開催し、さらに、他の団体もこのネットワークを利用した会議を計画する予定です。

令和6年度 事業計画

事業	内容	時期(予定)
国際交流ボランティア制度	語学、ホストファミリー、文化、事業、日本語の各ボランティアの登録・紹介	随時
ホームページ等による情報発信	在住外国人向けの生活情報やセンター事業等について発信	随時
会報誌「国際交流つつしん」の発行	当センターの事業や国際交流・多文化共生に関する情報等を紹介する会報誌の発行	7月、11月、3月
千葉県外国人相談事業	在住外国人の電話・来所による生活相談への対応(13言語)	随時
外国人のための無料法律相談	外国人の生活上の法的問題に弁護士、行政書士が対応、通訳手配も可	毎月
ちば出前講座	在住外国人を団体や学校等に講師として紹介	随時
多文化共生社会理解促進講座	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッション等を中心とした交流授業の実施	随時
国際フェスタCHIBA	国際交流・協力団体の活動成果を展示等により、広く県民に広報	年1回
日本語学習支援者基礎講座	初心者を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための講座	6～3月
日本語学習支援者フォローアップ講座	日本語学習支援者を対象に、学習支援技術の向上を図る講座	6～3月
地域日本語教育フォーラム	県民を対象に地域日本語教育の理解を深める為の講演、参加者間の交流・意見交換	9～3月
語学ボランティア研修	国際会議やイベント等で語学ボランティアとして活動するためのスキルアップ講座	年1回
外国人相談基礎知識研修	在住外国人の生活支援に役立つ、基礎的事項を学ぶ講座	年1回
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講演・情報交換	年1回
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座	年3回
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間国際交流団体や、市町村国際交流協会担当者による情報交換	年1回
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	年3回

令和6年度 外国人のための無料法律相談の日程が決定しました

千葉県国際交流センターでは、千葉県弁護士会・千葉県行政書士会と協力し、無料法律相談会を実施しています。令和6年度の日程は以下の通りです。通訳をつけることもできますので、詳細は予約時にお問い合わせください。

第1回	4月5日(金)	第7回	7月1日(月)	第13回	10月7日(月)	第19回	1月10日(金)
第2回	4月15日(月)	★第8回	7月16日(火)	第14回	10月21日(月)	★第20回	1月20日(月)
第3回	5月7日(火)	第9回	8月5日(月)	第15回	11月5日(火)	第21回	2月3日(月)
★第4回	5月20日(月)	第10回	8月19日(月)	★第16回	11月18日(月)	第22回	2月17日(月)
第5回	6月3日(月)	第11回	9月2日(月)	第17回	12月2日(月)	第23回	3月3日(月)
第6回	6月17日(月)	★第12回	9月17日(火)	第18回	12月16日(月)	★第24回	3月17日(月)

★…行政書士相談あり

ペルー出身の日系サポーター・グレニさんが活動中!

JICA日系社会研修員（日系サポーター）としてNPO法人多文化フリースクールちばにて研修中のソリス グレニ（SOLIS GRIMALDOS Gleni Flor）さんがお便りを寄せてくれました。

私は2022年サンマルコス大学を卒業して、病院で栄養士として働いていました。サンマルコス大学の言語センターで2年間日本語を勉強しました。

昨年の6月、日系サポーターとして来日しました。最初は、3カ月間、都内の日本語学校で日本語の授業を受けました。今は同じ学校で日本語教師養成講座を受けています。八千代市では、中学校で母語を守るためにペルー人の子どもにスペイン語を教えています。小学校では日系人の子ども達の学習を支援しています。フリースクールで、高校へ入学するために日本語を勉強している外国につながる子ども達に日本語の勉強を支援しています。また、彼らの心の支えになりたいと思っています。ペルーに帰国したら、日本語の教師になって、日本とペルーの架け橋になりたいと思っています。



千葉大学でのプレゼンの様子

●日系サポーター研修*とは? ※正式名称「日系社会研修（多文化共生推進／日系協力型）」

中南米在住の日系人や日系社会と関わりのある方を対象とした、日本国内の学校、団体、企業などで研修するプログラム。研修では日本語教師、幼稚園教諭、看護師といった自らの専門性を磨くとともに、日本国内で課題を抱える日系人へのサポートや国際交流促進活動による多文化共生・地方創生への貢献や、そこから得た学びを帰国後の自らの専門性向上や日系社会発展に役立てることが期待されています。

海外協力隊レポート

＜宮道宏彰隊員／千葉市出身／タイ派遣＞

活動地：タイ王国チョンブリー県バーンブン郡

職種：コンピューター技術

私の配属先は、プリンセス・チュラポン・サイエンス・ハイスクールというタイ王立の中高一貫、全寮制・男女共学で理数系科目に重点をおいた教育カリキュラムの学校で、タイ全国に12校設立されています。この12校と日本の一部の高専も交えて毎年開催していた、ゲーム・プログラミング・ハッカソンというイベント

が、コロナ禍で凍結していましたが、2022年10月から12月にかけて3年ぶりに盛大に開催することができました。また、クラブ活動の時間枠を活用して、生徒たちのモチベーション向上につながるような個別テーマのプレゼンを実施しています。生徒たちはとても優秀で、学校ではイベントも多く、先生方も積極的に取り組んでいます。また、学校の設備・環境面でも大変恵まれた状況です。



タイでの生活は快適ですが、驚くこともあります。私の住んでいるアパートの目の前にある屋台にクイティアオを食べに行くと、突然、ご夫婦が象を連れて出現しました。象に与える餌を10パーツで売りながら、それを買った人は象に餌を与えることができる、というビジネス!?だそうです。タイに来て初めて象を見るのが、家の前だったことも驚きでした。タイならではのーコマです!



クラブ活動の時間を利用した私のプレゼンの様子

JICA千葉デスクへのお問い合わせは以下までお願いいたします。

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 岩沢 久美子

TEL：043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX：043-297-2753 E-mail：jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp



世界からようこそ千葉県へ!

リトアニア共和国



※外務省ホームページより引用

皆さんはリトアニア共和国がどんな国か知っていますか? 千葉県とリトアニアの交流活動に大変熱心なオーレリウス・ジーカス駐日大使が、リトアニアの魅力についてお話してくださいました。



オーレリウス・ジーカス駐日大使

ラーバス（リトアニア語で「こんにちは」）!

駐日リトアニア大使のオーレリウス・ジーカスです。学生時代には日本での留学経験もあり、多くのご縁を経て、2年前に駐日大使として着任いたしました。日本との縁は約25年にわたります。

リトアニアは、北欧に位置するバルト三国の中で最も南に位置する国です。広大な平野が広がり、最高地点の標高はわずか300メートルです。森林に恵まれ、6,000もの湖が点在する、自然豊かな国です。



また、バルト海の琥珀はリトアニアの誇る宝石です。リトアニアは歴史ある美しい街並みや伝統文化が残り、数々の世界遺産もございます。

肥沃な土地により、多種多様な農産物が栽培されており、リトアニアの食料自給率は100%を超え、多くを輸出しています。日本にも、特に千葉県を含む各地で、リトアニア産の乳製品、冷凍パン、蜂蜜、ビール、CBD製品、卵などが好評です。



かつてのリトアニアは、700年前にはヨーロッパ最大の国でした。バルト海から黒海に至る広大な領土を持ち、モンゴル帝国と交戦していました。その歴史的背景から、ポーランド、ベラルーシ、ウクライナとの繋がりは深まりました。

残念ながら、約200年前にリトアニア大公国はロシア帝国の支配下に入り、40年間にわたり、リトアニア語の使用が禁じられました。しかし、人々は困難に立ち向かい、言語を守り抜きました。今日、リトアニア語は国民の誇りとなっています。



1990年にソ連からの独立を果たし、民主化と経済成長が著しく進んでいます。過去25年間でEU内で3位の経済成長率を記録し、現在、一人当たりのGDPは世界39位に位置しています。リトアニアの誇る産業はハイテックであり、特にレーザー技術を誇りとしています。リトアニア製のレーザーは、日本でも手術や研究に広く利用されています。さらに、IT分野も進展しており、公的な業務の約80%がデジタル化されています。フィンテックやサイバーセキュリティ分野でも優れた成果を上げています。

3月7日(木)~14日(木)に
2024 リトアニアウィーク
千葉県で初開催!

Instagram (https://www.instagram.com/chiba_international_center/)、
Twitter (https://twitter.com/chiba_ccb_ic) にて情報発信中!
「千葉県国際交流センター」で検索して、ぜひフォローしてください。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階
TEL:043-297-0245 FAX:043-297-2753 E-mail:ied@ccb.or.jp

事務所が
移転しました!

<https://www.mcic.or.jp/へgo!>

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)